

鶴見岳・伽藍岳の火山活動解説資料（平成 28 年 7 月）

福岡管区气象台

地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。

7 月 26 日の噴火警戒レベル運用開始に伴い、噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）を発表しました。

○ 7 月の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 1）

鶴見岳監視カメラ（大分県）による観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 2、図 3）

火山性地震の月回数は 9 回（6 月：13 回）と、少ない状態で経過しました。震源は、鶴見岳の東側と伽藍岳の南東側の海拔下 1～2 km でした。

火山性微動は 2010 年 11 月の観測開始以降、観測されていません。

・地殻変動の状況（図 4、図 5）

GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。



図 1 鶴見岳・伽藍岳の状況
（7 月 31 日、鶴見岳監視カメラ（大分県）による）

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 8 月分）は平成 28 年 9 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所、大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

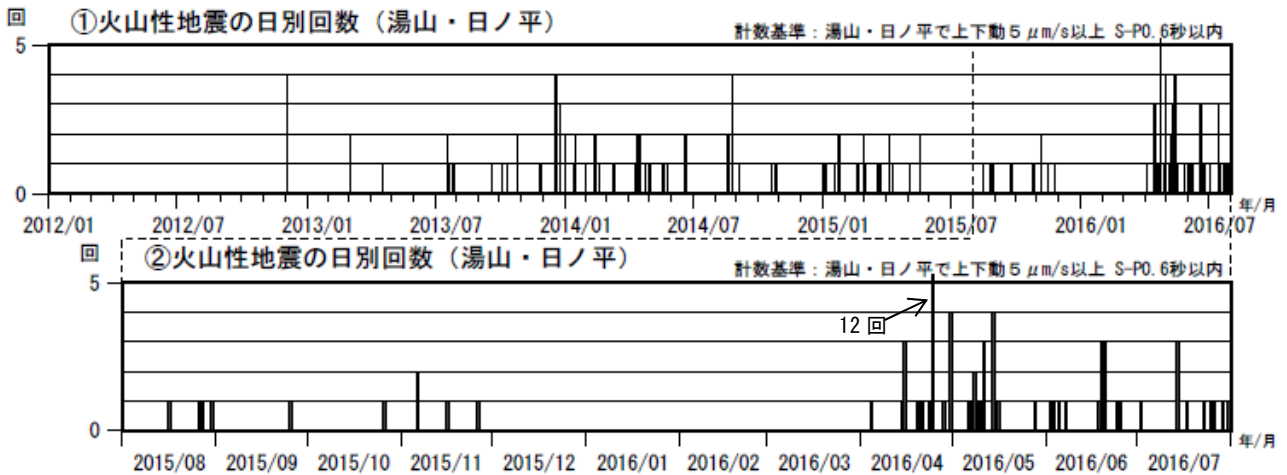


図2 鶴見岳・伽藍岳 火山性地震の日別回数（2012年1月～2016年7月）

< 7月の状況 >

- ・火山性地震の月回数は9回（6月：13回）と、少ない状態で経過しました。
- ・火山性微動は2010年11月の観測開始以降、観測されていません。

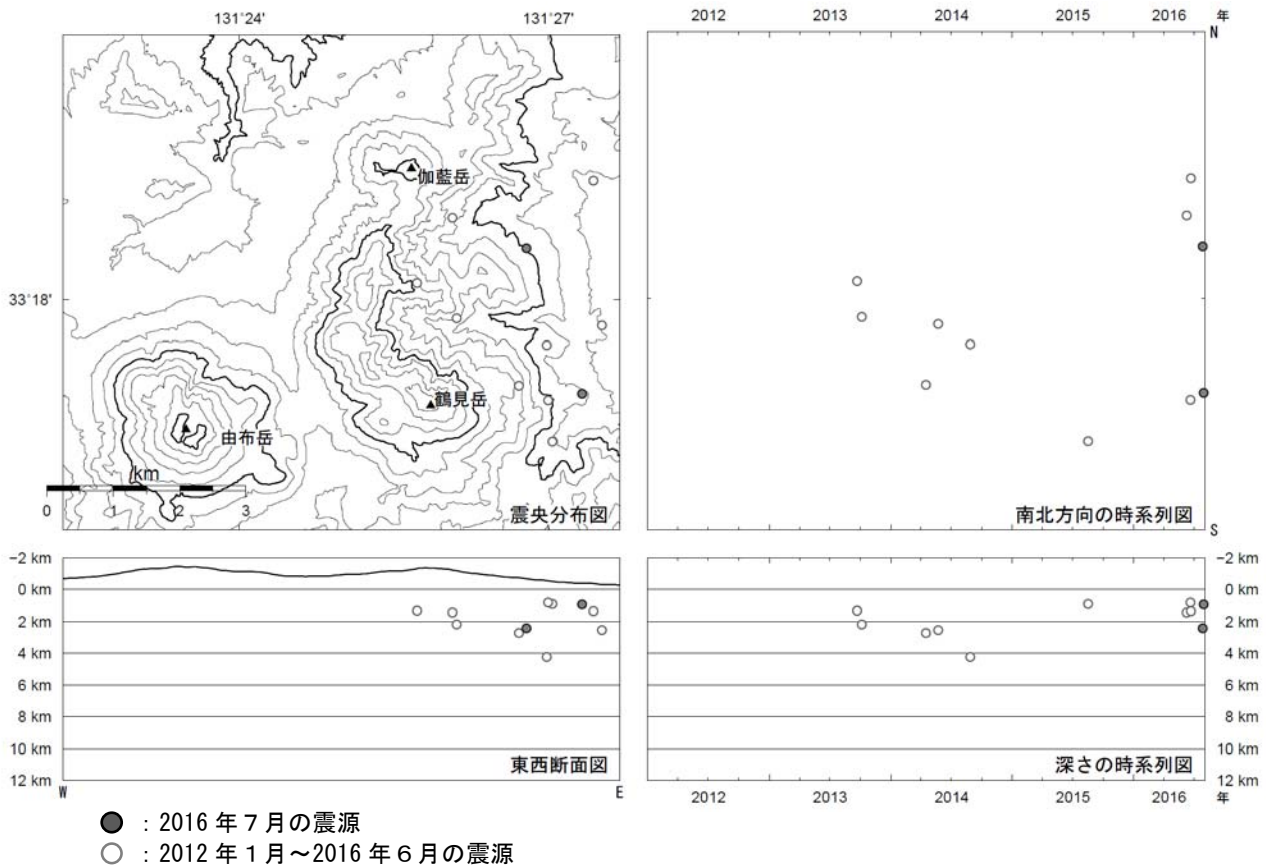


図3 鶴見岳・伽藍岳 震源分布図（2012年1月～2016年7月）

< 7月の状況 >

震源は、鶴見岳の東側と伽藍岳の南東側の海拔下1～2kmでした。

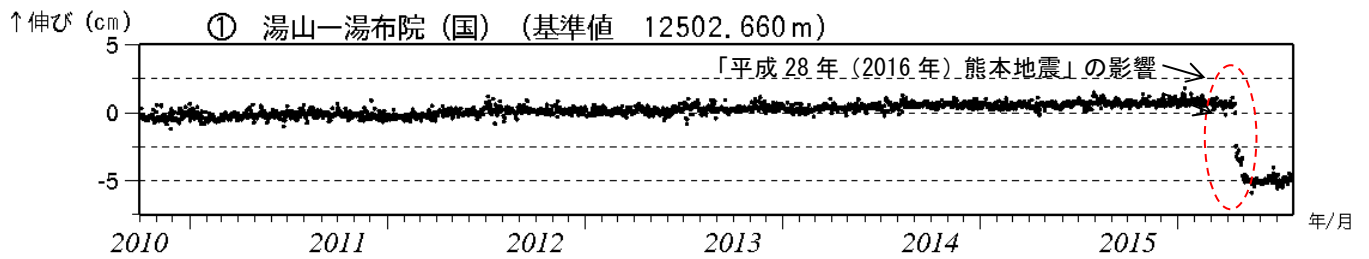


図 4 鶴見岳・伽藍岳 GNSS連続観測による基線長変化（2010 年 10 月～2016 年 7 月）

GNSS連続観測では、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この基線は図 5 の①に対応しています。

（国）：国土地理院

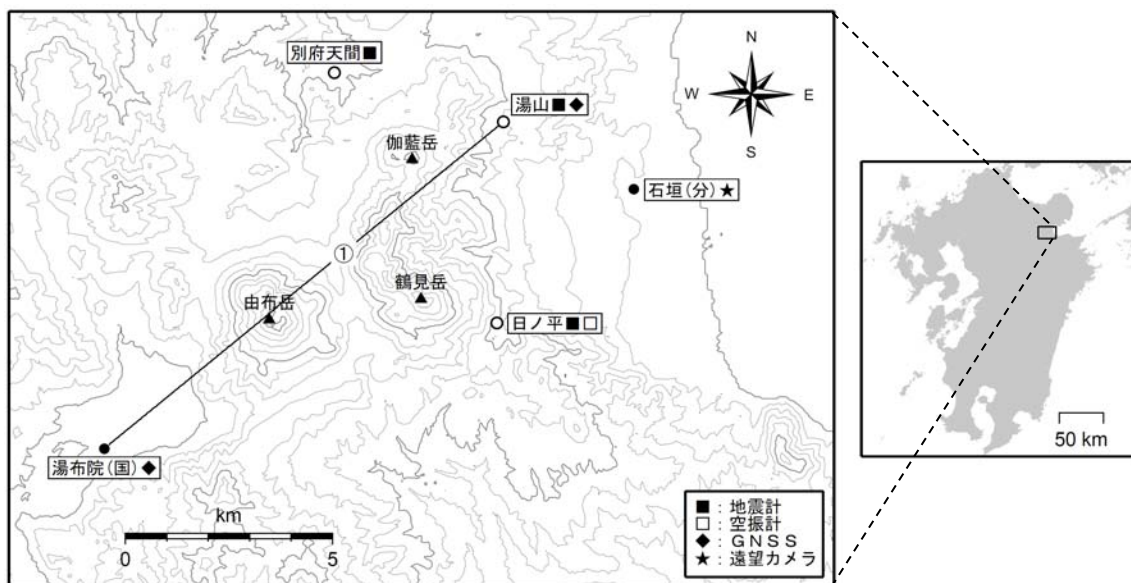


図 5 鶴見岳・伽藍岳 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院、（分）：大分県

遠望観測点「石垣（分）」は鶴見岳監視カメラ（大分県）を示しています。